



あいさつで広がる笑顔と 地域の見守り

～大井・宿根地区ふれあいあいさつ運動～

大井・宿根地区協働のまちづくり協議会では、「みんなで一緒にやろうや！」の掛け声のもと、地域ぐるみでふれあいあいさつ運動を展開し、人にやさしいまちづくりを進めています。



啓発ステッカー

「おはよう」

朝、子どもたちの登校時間にあわせて、街頭であいさつ運動に取り組んでいるのは、大井・宿根地区協働のまちづくり協議会のふれあい部会。住民同士のふれあいを大切に考え、普段の生活の中から折にふれあいさつを交わしていこうと、地域ぐるみであいさつ運動を展開しています。

各家庭に啓発ステッカーを配布するほかに、住民から標語を募集し、入賞作品を表示した立看板や短冊を地域や家庭に配布・掲示しています。

「畑で草取りをしている人や、通りがけに会った人に声をかけるなど、何気ないところでの一言が大切なんですよ。」と、ふれあい部会長の福田進さん。高齢化が進むこの地区では、あいさつは、互いが元気であることを確認するための声かけでもあり、だれもが気軽に参加できる支え合いの活動だといえます。

一人ひとりが楽しく安心して暮らしていけるように、今後もさらに活動の輪を広げていきます。



5月16日、市内で第6回県政知事懇談「湯崎英彦の宝さがし」が開催されました。湯崎知事は、午前中、市内を現地視察。竹原駅前商店街での朝市「きてみんさい」に始まり、町並み保存地区、小吹の竹林、バンブー公園を訪れ、市民のみなさんからのお話や様々な体験を通して、各地で竹原の魅力や課題を探りました。

小吹の竹林では、知事が実際にたけのこ狩りを行い、試食をしました。現地説明者である地域ブランド開発アドバイザーの大田俊夫さんや小吹のたけのこブ

県知事が竹原の「宝」を探しに！！

～県政知事懇談「湯崎英彦の宝さがし」～



ランド化プロジェクトリーダーの佐渡文武さんたちと談笑する姿も見られ、終始和やかな雰囲気でした。

午後は、市民10人との意見交換会。様々な分野で活躍する人たちが、自らの活動や普段の生活の中で感じる竹原市の住みよさや課題、さらには広島県への提案などを、知事に伝えました。

駅前商店街を活性化させるために「若おかみの会」を立ち上げ、朝市やイベントの開催などに取り組む藤川万里子さんが、

「商店街の活性化のためのアイデアを出店者や他団体からもらうこともあります。人とのつながりをつくりながら、商店街を次世代につなげていきたいです。」と話す、知事からは、

「意欲的な活動が、いろいろな人の力やネットワークの活用につながっていると感じました。人とのつながりが新たなアイデアや力を生み出すと思います。」

というコメントがありました。知事は、「新しいつながりをつくる市民パワー」が、竹原市の「宝」と感じたそうです。

患者をより早く搬送するために

4月28日、竹原消防署でヘリコプター研修訓練が行われました。救急患者を搬送するため、患者の受け入れ・引き渡しを安全・確実に行えるよう、広島県防災航空隊と竹原消防署員が連携して研修訓練に取り組みました。



かぐや姫 今年も観光客を魅了

5月3～4日、町並み保存地区一帯でたけはら竹まつりが開催されました。華やかな衣装に身を包んだかぐや姫が登場すると、カメラをかまえた来場者からは、「わあー。きれいだねえ。」という声があがっていました。



市民グループ 潭陽郡と姉妹縁組

4月末から5月上旬にかけて、竹原市国際交流協会のメンバーが竹を生かしたまちづくりを行う韓国の潭陽郡を訪問しました。これまでも交流を深めてきた両者。今回の訪問では、竹文化に親しむ市民グループ同士が姉妹縁組を結びました。



発電所ってどんなところ？

5月23日、たけはら火力発電所の1日開放デーが開催され、多くの人でにぎわいました。発電所見学では、普段見ることのできない発電所の設備に子どもたちも興味津々。所々に用意された発電所クイズも楽しそうに解いていました。



東山 寛治さん



大田 嘉弘さん

春の叙勲 受章者決まる

4月10日と29日、春の叙勲受章者が発表されました。

吉名町に住む元竹原広域行政組合消防監の東山寛治さんは、危険を伴う業務に従事した人の功績をたたえる「危険業務従事者叙勲」の瑞宝双光章を受章されました。長年、火災現場での救助活動などを通して、人命を守ってこられました。

竹原町に住む学校歯科医の大田嘉弘さんは、瑞宝双光章を受章されました。これまで、東野小学校や竹原中学校、賀茂川中学校で、子どもたちの歯科健診や虫歯予防に取り組み、学校保健の充実と保健衛生の向上に貢献してこられました。



学校給食センターが完成！

5月20日、竹原市学校給食センターの落成式が行われました。

落成式には、小坂市長を始め、多くの関係者が出席しました。給食センターのニックネームを考えた吉名中学校の藤見空くとマスコットキャラクターをつくった忠海中学校の安岐直将くんも出席し、テープカットに参加しました。

テープが切られた瞬間、出席者の温かい拍手に包まれた学校給食センター。衛生面を保つための設備が整えられた環境で、「食育」と「地産地消」の推進に取り組んでいきます。